

宮城県水産加工業振興プランの概要

第1 水産加工業振興プラン策定の背景・目的等

- 1) 水産加工業の生産額は減少傾向～H4:4,285億円→H19:2,817億円(ピーク時比較65.7%)。経営環境は厳しく、地域経済にも悪影響。
- 2) 富県宮城の実現に向けて、水産加工業の振興が重要(「水産業の振興に関する基本的な計画」においても重点課題と位置付け)。
本県における製造品出荷額:35,516億円(H19 以下同じ)、うち食料品出荷額:6,014億円(製造品出荷額のうち16.9%)
→食料品出荷額のうち水産加工品出荷額は46.8%を占める。

【水産加工業の現状を整理し、施策展開の指針を示すとともに、各種施策間の連携を図りながら効率的、効果的に展開していくための方向性を示すもの】としてプランを策定

第2 水産加工業の現状

多くの業種で共通した課題

練り製品
販売単価の下落が顕著。厳しいすり身の供給環境。低価格基調が続き、コスト増を販売価格に転嫁できない。

冷凍食品
ほぼ横ばい。輸入原料の状況は厳しいが、多様な加工形態により販売環境へ弾力的に対応。

塩蔵品
食生活の変化や安価な輸入製品との競合により厳しい状況。

冷凍水産物
原料供給の上で大きな役割。カツオ、サンマ等の県内への水揚げ量に影響を受けて生産量変動。

流通・販売業界から見た水産加工業の現状
水産加工業の取り扱いは今後増加見込み。ただし、低価格傾向は継続。産地感のアピールと、消費者視点に立った商品開発が必要。

第3 本県水産加工業の個別課題と施策の展開

本県水産加工業の課題と施策の展開(企業訪問、地域検討会などにより整理)

1. 原魚・原料の確保

- 課題1** 地元水揚げ原料(前浜原料)の安定確保
対策 水揚げ量の拡大対策
対策 既存漁船(水揚げ)の利用拡大
対策 水揚げ漁船受入のための漁港機能の強化
- 課題2** 輸入原料の安定確保
対策 海外原料事情の情報収集力の強化
対策 輸入原料の入手価格の抑制
対策 輸入原料の機動的な購入への支援強化
- 課題3** 原料の効率的な活用等
対策 企業間情報システムの構築
対策 原料使用量の抑制対策



2. 生産・流通の拡大

- 課題1** 新商品の開発促進
対策 加工技術の開発支援
対策 商品開発コストや新たな設備投資への支援強化
対策 新商品の評価・ニーズ等の把握
- 課題2** 販売力の強化・販路拡大
対策 地産地消の拡大
対策 インターネット販売の拡大
対策 輸出促進
対策 PR強化
- 課題3** 廃棄物対策の推進
対策 廃棄物発生量の抑制・有効活用



3. 地域毎の個別課題と施策の展開(気仙沼、石巻、塩釜)



必要な施策に対応した取組みの整理

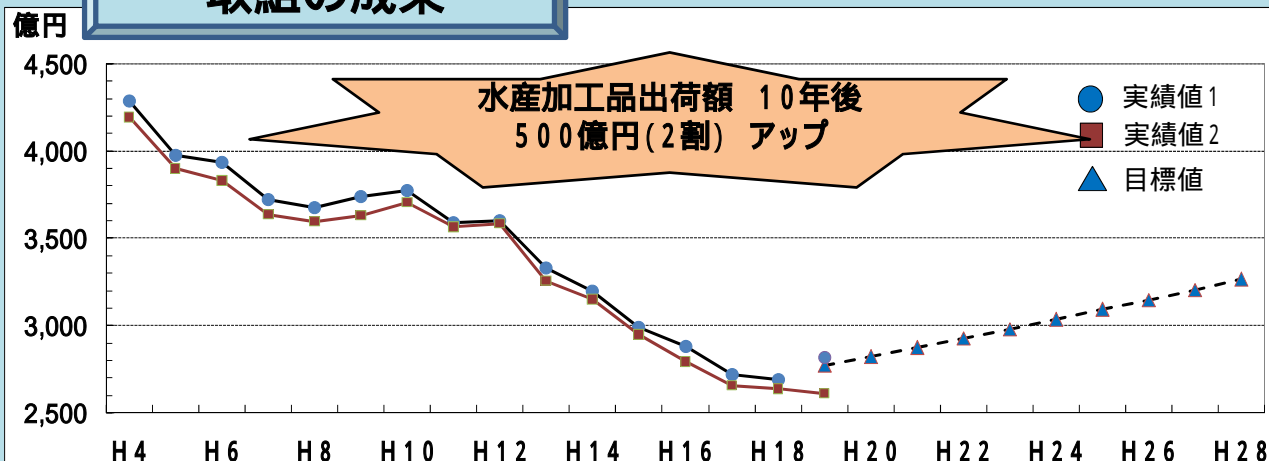
効率的かつ戦略的な展開

平成21年度に実施する具体的な取組(別冊)

支援施策の活用促進と施策への誘導

第4 本県水産加工業の振興のための施策推進体制

取組の成果



注1: 実績値1及び目標値は、製造品出荷額等(製造品出荷額、加工賃収入額、修理工収入額の合計値)
注2: 実績値2は、製造品出荷額のみ
注3: 実績値1は、H19に調査事業所数の変更と調査項目(その他収入額)の追加をしたため、前年値と接続しない